

## 電子付録について

『社会心理学研究』に論文を投稿するとき、PDF 形式の電子付録をつけることができる。論文が『社会心理学研究』に掲載された場合、投稿された電子付録へは、J-STAGE の論文ページからダウンロード可能な状態で公開される（冊子には電子付録があることのみ記載される）。ただし、電子付録はあくまでも補助的な資料であり、論文自体は電子付録なしで完結したものでなければならない。

- 電子付録は、論文読者に研究に関するより詳細な情報を提供するものである。電子付録として想定される内容の例を以下に挙げる（ただし、いずれの内容も本文中で無理なく報告できる場合には本文中で報告すること）。
  - ・ 実験刺激作成のための予備調査等の詳細
  - ・ 大規模調査のサンプリング手続きの詳細
  - ・ フィールドワークの調査地・調査対象についての情報
  - ・ 実験で用いた画像刺激一覧
  - ・ 研究に含まれる変数の記述統計量と相関行列
  - ・ 多くの変数を含む重回帰分析の詳細な結果
  - ・ 多くの変数を含む因子分析の結果（因子負荷量等）

（電子付録の内容は上記の例に限られない）

- 電子付録に文章を含むセクション（例えば、予備調査の詳細）がある場合、見出しをつけて論文本文中で「電子付録の予備調査のセクションを参照」のように言及することが望ましい。
- 電子付録に表、図を含める場合、Table S1, Table S2..., Figure S1, Figure S2...のように、本文の図表とは別に通し番号をつける。電子付録で報告している図表にも本文で言及することが望ましい。
- 付録の図表が複数ある場合、可能な限り 1 つのファイルにまとめること。ただし、J-STAGE にアップロード可能なファイルサイズの上限である 50MB を超過する場合は、複数のファイルに分割すること。

- 論文と一緒に投稿された電子付録は、審査者も見ることができる。審査者は必要に応じて電子付録に報告されている内容を参考にし、その内容にコメントをすることもできるが、原則として電子付録の内容は直接の審査対象とはならない。そのため、著者は審査者が電子付録に一切目を通さなくても掲載可否の判断が可能な原稿を提出する必要がある。
- 論文改稿の過程で電子付録の追加もしくは修正の必要が生じた場合、改稿原稿の投稿時に電子付録の修正もしくは新規電子付録の追加をすることができる。
- 電子付録は著者から提出されたものをそのまま J-STAGE に掲載し、その著作権及び責任は著者に帰すものとする。掲載にあたって、一次資料の著作権者の許可や被写体となった人物・事物の所有者の許可が必要なものがあれば、著者自身が掲載許可をとること。
- 論文掲載が決定した段階で、電子付録のライセンスの特徴をクリエイティブ・コモンズ・ライセンス群から選択してもらい、J-STAGE 上でそれを明記する。
  - ・ライセンスの説明（外部サイト） <https://creativecommons.org/choose/>
- PDF ファイルに含めることができない付録（例えば、音声刺激、動画、実験プログラム）については、所属機関レポジトリや外部レポジトリ（例えば、Open Science Framework）にアップロードして、そのリンクを論文中に記載すること。